

週刊長野

発行所/株式会社週刊長野新聞社 〒381-0036 長野市平林一丁目37番27号
 ☎(026)244-5946 FAX(026)243-9285

©週刊長野新聞社 2012年 ホームページ: <http://www.weekly-nagano.co.jp/> メール問い合わせは記事下参照

広告取扱/㈱ながのアド・ビューロ☎(026)291-8804/㈱共立プランニング☎(026)238-8877

㈱アサヒエージェンシー☎(026)233-2222/㈱ニ広☎(026)244-5515

㈱週刊長野☎(026)244-5946 広告受付/koukoku@weekly-nagano.co.jp

話題を追って

千曲川の度重なる氾濫によってもたらされた肥沃の地として、長年の栽培が盛んな松代町清野。人が埋もれてしまうほど勢いよく茂ったアカザを、近くの窪田正さんが豪快に刈り取っていく。

耕作放棄地で薬草栽培

雨と日照しを浴びて生い茂る。どんな環境でも種を絶やさぬパワーがあるから、そ薬になるという。

窪田さんが初めて栽培した薬草は、血糖値が上がった自身の健康のために作った。安定栽培の手応えをつか

成長と国際的な需要増大で、りも行い、栽培した薬草と薬草の調達が難しくなる。今のように日本で賄えるようにしないと。中国から仕上げる。

「松代イヤー」では食部門のリーダーを務め、常に地域の発展に目を向ける窪田

万で抜かれないように、『借用地アカザ栽培中』の立て札を立ててゐるんですよ」と笑う。種が飛ぶ前に刈り取る配慮も忘れない。それでも地中に眠る種が芽を出した。中国の目覚ましい経済

み、今季は栽培面積を約1倍に拡大。ツルナ、ツキミソウ、ニガウリなど13品目の増産に踏み切った。自生するドクダミ、ヨモギ、桑の葉など一般からの買い取り



窪田さんが刈り取ったアカザを集める協力者ら＝写真右下。総栽培量は15t。ビニールハウスで一次乾燥させる＝写真左下

紙面紹介

- 9面 9月の漢字ナシクロ
- 12面 第46回長野市少年
- 13面 野球大会特集
- 14面 敬老の日特集

(記事・三井百合子)
(写真・森山広之)

として、生産効率、コストなどの方針を自らつくり、活動を広めていく計画だ。さらなる願いは、志を受け継ぐ若者を育てること。故郷に活気を取り戻し、未来につないでいくためにも

さん。情熱の背景にあるのは、高齢化によって耕作放棄地が増えた清野の情景だ。薬草は長年より労力も経費も軽減でき、契約栽培で安定収入が見込める。年を重ねても体力に合せて栽培でき、新たな特産品になり得る。

清野農業活力の会会長